

令和4年度 京都市歴史資料館評議委員会議 摘録

1 日時 令和5年3月14日(火) 午後3時～午後4時30分

2 会場 職員会館かもがわ 2階 大会議室

3 出席者

評議委員：荒木かおり、宇佐美英機、片山真理子、坂本博司、竹村佳子、  
中尾亮弘

京都市：文化市民局文化芸術推進室山口担当部長（事務局長）

文化財保護課牧山課長、文化財保護課安井係長

歴史資料館 井上館長、藤木次長、田頭、松中、秋元、吉住、野地、尾下

4 欠席者 玉城玲子

5 傍聴者 なし

6 議事運営

(1) 開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

(2) 開会あいさつ

(3) 出席委員・出席者の紹介、配布資料の説明

(4) 令和4年度事業報告、令和5年度事業計画、歴史資料館運営予算について説明  
(資料4、5、6に基づき説明)

(5) 質疑

【評議委員】「フィールドミュージアム京都」のwebサイトの作りがかなり古いが、更新はないのか。

【京都市】現状維持である。予算上、更新は難しい。

【評議委員】その他についても、インターネットを使つての発信がされていない感じがする。

【京都市】情報発信については改善したいところだが、なかなかできず、苦慮している。

【評議委員】スマホに対応しないと、見られないサイトになりつつある。SNSでも、他の歴史資料館では、資料の画像を載せて解説があるが、京都市ではほぼ途絶えている。前回も、歴史資料館のようなwebアーカイブの整備について発言したが、予算がないという回答であった。インターネット中心になっている現状、そこに予算をかけていただきたいと思う。

【京都市】課題として重々認識している。今後も引き続き検討したいと考えている。

【評議委員】(有料化した図録の)300円や200円という金額は、予算的には焼け石に水程度なのではないか、どれくらいの利益を見込んでいるのか。1000円でのトークライブも高額な利益ではない。有料にする意義はあるのか。

【京都市】(トークライブについては)公平性の観点も含めて、人数制限があり有料とした。館の運営上、それで賄えるかというのは、現実的には難しい。市の施設全般において料金を

見直すという議論があった中で、当館についても（入館料を）有料化すべきか検討したが、人の動線等、ハード的な問題があり、有料化は難しく、別の方法を探るということで、去年から、図録やトークライブなどの有料化をはかっている。金額については引き続き検討していきたいと考えている。かたや、市民の方から「無料で良かった」というご意見、SNSでの発信もあったりする。当館の在り方については、まだ議論を重ねていきたいと考えている。有料化させていただくことによって、図録であれば、質をあげていくということが必要。学芸サイドの知恵をフルで働かせて、有料の価値に見合った質にあげていくというような効果もあると思う。はじめたばかりではあるので、より良い形を作っていくと考えている。

【評議委員】今回の展示（「京歴展！」）で、博物館構想があったと知った。考古（資料館）もそうだが、スペースが小さすぎる。考古（資料館）の今の金箔瓦の展示はすごく面白いが、スペースが小さすぎて、もったいない。古い建物を活用しているのは理解できるが、スペース的に無理な状況になっていると感じる。もっと展示スペースがあったら多分全国から人が来ると思うが、建てることはままならないだろうということになると、結局インターネット上でもっと見てもらうという形になるかと思うが。

【京都市】建物の関係は重々認識している。今の市の財政的な問題を考慮すると大型なプロジェクトに着手できず、忸怩たる思いはある。今の施設の規模の中で、得意分野ともいえるべき、伸ばせるところはしっかり伸ばしていく、事業についても引き続き努力はしていきたい。

【評議委員】その話に関わって、京都市歴史資料館は寄贈・寄託資料は受け入れていくのか。この頃、全国的に寄贈は受け入れるけれど寄託は断るという館が増えている。器そのものが老朽化してきた、整備しなければいけないという話は理解したが、受け入れるスペースはあるのか。整備が済むまでは、寄託・寄贈を原則的にどういうふうにするのか。

【京都市】現状ではスペースがないのが一番の問題になっている。最終的にどういったものを寄贈・寄託として受けるかというのは個別の判断になってくる。

【評議委員】満杯であるならば、やはり何かの原則を立てておくべきだろうと思う。京都市の個人所有の古文書で、魅力的なものであれば受け入れると思うが、そうでないものはどうするのか、やはり基本的方針は持っておかないと。京都の大学との連携みたいな形で情報共有しながら、寄贈・寄託をしたいという市民がいた時に、どこかで受け入れないと、散逸する。

【京都市】他館がどうしておられるかという情報収集もして、今後、方針については十分検討して参りたい。

【評議委員】『京都の歴史』を編んだ時に集めた資料の家を一回追跡調査した方がいいと思うが、それは実施しているか。代替わりも進んでおり、次世代とつながるようにしないと、寄託資料は本当に難しくなる。各家の調査は本当に悉皆調査目録か、そうでないのか、というところもきちんと確認してもらいたい。

【京都市】寄託資料の契約者の引き継ぎについては、いくつかの事例で認識しているので、それについては調査する方向で現状考えている。併せてご指摘いただいた部分についても

検討したい。

【評議委員】京都女子大学との善峯寺の調査には、東大史料編纂所は関わっていないのか。善峯寺の資料の一部について、東大史料編纂所が持っている写真がある。

【京都市】史料編纂所は関わっていない。今回は悉皆調査で、当館含めいろいろな大学が入っている。調査は一段落して来年度は報告書をまとめるというスケジュールである。

【評議委員】東大史料編纂所が関わると、タイアップで大学の予算をつけてくれるという。岩倉具視だけではなくて、(編纂所は) いろいろ部門があるので、コネクションをつけておくといろんな学内の研究予算で協力してもらえるので、連携しておけばよいのでは。

【京都市】承知した。

【評議委員】建物では聞くが、外国人が文化財資料を買うケースはないのか。

【京都市】実際にそういった相談は聞いていないが、散逸する可能性も含め、注視はしていきたい。

【評議委員】

下村家、熊谷家文書の調査をしているが、書籍なりデータベースなりで公開される予定はあるか。

【京都市】今年度末に調査報告書を刊行する。調査報告書は300部印刷して、大学図書館などの主なところに寄贈する。個人所蔵文書なので、インターネットでの公開は現状検討中である。

【評議委員】デジタル化の時代で、全国的に文化財をデジタルアーカイブで利用しやすくなっている。まずはホームページを独立させて、そこからいろんな連携にもっていけるよう進めていただきたい。古文書の場合はスキャナやデジタル写真の高精細画像が残せるし、無策で廃棄されるよりはこういった画像で残しておく、記録保存していただくということも考えてもらえたらと思う。

【京都市】ホームページ、デジタル化の件も課題として認識している。検討して参りたい。

【評議委員】御所東の展示(「歴史資料館がある場所—御所の東の今と昔—」)の図録は、本当に興味深い冊子なのに、すごく地味に感じた。もっと広く一般にも読んでもらいたいと思う。

古写真のデジタル化のためのスキャン作業は地味だが、興味がある人にとっては面白い作業だし、例えばボランティアなど、歴史好きな方々に声をかけるなど、知的好奇心を満たしながら、一般市民をうまく巻き込んでマンパワーを充実させる仕掛けを考えてはどうか。職員を増員して、寄託寄贈の資料の整理をするというのは現実的ではないように思えるので、ボランティアというマンパワーを集約できるようなことを考えてみたらどうか。

もう一つは子供向けのワークショップで、少しハードルは高いかもしれないが資料を読むワークショップ、あるいは館員がどういうことをしているのかを公開するようなワークショップであれば、子供たちの歴史への興味も変わってくるのではないかと感じる。

【京都市】デジタル化にあたってのボランティアの活用については、凸版印刷のアプリ(く

ずし字翻刻)の開発協力として、各大学と連携して、学生と一緒に勉強しながら実証実験をやらせていただいているところではある。子供のワークショップは、花押を作って缶バッジにするという試みをさせていただいたが、小さいお子さんだけでなく高校生も来られ、好評であったが、その中でも子供さんの中では古文書講座を開いてもらえないかというご意見も出ており、資料をひもとくようなワークショップができればと考えている。

【評議委員】報告を聞いていると、フル活動している。逆にブレーキを踏んで、見直す、今、その方がかえって良いのでは。足し算ばかりではなくて、気分的に変えられる時があるので、がちがちに考えすぎないように、工夫することもこういう施設では重要ではないか。

【評議委員】地方の資料館でも、京都と関わりのある歴史の話が多い。京都市・京都府は、地元の資料を集めるというのが基本になるが、地方との関係の資料も集めるとなると膨大になる。京都市の市民だけでは財政的に支えられないので、コロナで人が来ないとどうしようもない、やっぱり全国から京都市の歴史は見たいというようにPRして、全国から寄付を集めるなどしては思う。

【京都市】全国から電話での歴史相談は受け付けており、歴史調査員が熱心に回答していて大変好評である。修学旅行の学生さんが調査員に質問するということもあり、非常に好評で、お礼状も届いている。そういった形で京都市の歴史資料館としてはお役に立てているかとは思う。

#### (6) 事務連絡

評議委員の改選と市民公募委員の退任について報告。

#### (7) 閉会挨拶